

# 子や孫に、誇りを持って 引き継ぐことができる 高島市を築く

平成26年度

## 施政方針

平成26年2月26日開会の高島市議会3月定例会の開会に伴い、福井市長が示した施政方針について、概要をお知らせします。



### はじめに

昨年2月に市長に就任させていただき、早1年が過ぎたところです。

この間市内では、赤坂山での小学生の一時行方不明、マキノ町在原地区での大規模な茅葺き民家の火災、台風18号災害、放射性木材チップ問題、饗庭野演習場におけるオスプレイの白米共同訓練参加、さらには職員による数多くの事務処理の不適正事案の発覚等々、本当に過去に例を見ないさまざまな出来事がありました。

私にとりましては、こうした事案に対する迅速かつ的確な判断を求められたところですが、常に市民の皆様にとつて、どのような選択をすべきかということを中心に、危機管理も意識しながら、言い訳することなく、誠実で信頼される市政運営に誠心誠意努めてきたところです。

### 平成26年度予算の編成にあたって

平成26年度は市制10周年の節目の年に当たります。

こうした中、昨年12月に開催された「全国発酵食品サミットinたかしま」は、この地域の食文化とともに、当市の魅力やブランド力向上に寄与し、私たち自身の誇りを高めたと感じています。

また美しい琵琶湖を臨むJR湖

西線も開通40周年を迎えます。

こうした地域資源を活かした取り組みも必要と考えています。

一方、国政では、平成26年度一般会計政府予算案において、消費税増税に加えて法人税収等の伸びにより、税収が7年ぶりに50兆円台に乗り、16%の高い伸びとなっています。これに対し、歳出面で

は、社会保障費が全体の3割を占め、30兆円を初めて突破するなど、全体で平成25年度当初予算に比べて3.5%増と、過去最大の95兆8,823億円となつています。

しかし、地方財政に大きな影響を及ぼす地方交付税については、全体で16兆8,855億円、対前年度で1,769億円、1%減と、昨年に続いて、減少が見込まれています。

また、平成26年度滋賀県一般会計予算案については、5,153億1千万円、対前年度比4.0%増と、7年ぶりに5,000億円台に乗る積極予算と報告されています。

こうした中で、高島市の平成26年度当初予算は、私にとって初めての本格的な予算編成となりました。

多くの市民の皆様からの数々の貴重なご意見やご提案をいただき、各部局との政策議論を重ねながら、取り組むべき施策を構築させていただきました。

### 市役所本庁舎・支所整備方針、 今津地域市有地活用方針

平成16年に策定された「新市建設計画」では、平成26年の将来人口を56,700人と想定し、基本方針や公共的施設の統合整備を検討していますが、平成26年1月末の本市の住民基本台帳人口は52,051人と既に大きく乖離しています。

また、平成17年の市内の出生数は405人でしたが、平成24年には307人と、100人近く減少しています。

さらに、65歳以上の方が人口に占める割合を示した高齢化率についても、平成17年に25.1%であったものが、本年1月末で29.5%という現状です。

こうした状況から、「高島の未来をしっかり見据え、私たちの子どもや孫に、誇りを持って引き継ぐことができる高島市を築くことが、今を生きる私たちの使命である。」ということを信念として、将来につけを残すことがないよう、見直すべきものは勇気を持つ

て見直すことが必要という思いを強くしたところです。

両課題については、庁内職員によるプロジェクトチームで、今後の財政状況も含めて、さまざまな角度からの課題の洗い出しや分析、検討などを行ってきました。

そして、11月には市本庁舎・支所整備方針検討委員会を設置して整備方針案を取りまとめ、市議会にご報告し、議員各位をはじめ各地域審議会委員、地元関係者の皆様等々、本当に多くの方々からのご意見をいただきました。

とりわけ、市役所本庁舎・支所整備方針については、「合併協定内容を守るべき」、「条例内容と不整合」、「議論が拙速」といったご意見のほか、「財政状況を踏まえ、方針どおり現新庁舎を活用すべき」、「昨年の選挙で民意は明確」、「また、支所機能の充実がむしろ必要」といったようなさまざまなご意見をいただく中で、私といたしましては、合併特例債の発



行期限を見据えながら、まずは市政の混乱を避ける必要性など、さまざまな観点から総合的に勘案し、新年度予算への必要経費の計上を見送る判断をさせていただきました。

今後は、現行の新市建設計画の期限と合併特例法の5年延長期限との整合性を平成26年度中に図らなければならないなど、時間的猶予がないことから、改めて、関係



議案の審議をお願いしたいと考えています。

## 医療・福祉・介護

病院経営の健全化と、診療施設や診療体制の整備を推進

●包括的診療報酬支払い方式（DPC方式）の導入に向け、診療データや他病院との比較検証を元に、経営改善につなげます。

●第1種へき地診療所として地域医療を担ってきた「高島市国民健康保険朽木診療所」の新築移転を契機として、地域医療の一層の充実を図ります。

●財政状況が厳しい保険財政において、当市の保険税は県内13市で最も低くなっていますが、今後は、広域化を見据えた検討を始めていきます。



地域の「つながり」で、誰もが安心して暮らせるまちづくり

●地域の日常生活の中で、一人暮らしの高齢者や子ども等、支援を必要とする人を見守る「高島市見守りネットワーク事業」に取り組み、市民が安心して暮らせるまちづくりを進めます。

●障がいを持つ方の暮らしを支援するため、障がい者グループホームの建設整備を支援します。

●介護保険法の改正を踏まえ、各地域包括支援センターの機能を充実させるため、組織も含めた見直しに取り組みます。

## 産業・観光振興

●中小企業の振興と地場産業の育成のため、設備投資・雇用促進・労働環境整備に対する支援を継続し、雇用促進につなげます。

●高島産農作物の販路拡大のため、引き続き「生産、認証・PR、流通・販売」までを有機的に関連させた取り組みを行います。

●学校給食への地元野菜の供給を促進するため、食育農園の取り組みや生産供給拡大への取り組みを支援し、地場産野菜の使用量を、現況の20%から、平成28年度には40%とすることを目標とします。

### 高島地域地場産業振興センターの再整備

●高島地域地場産業振興センターを、「産業交流センター」、「公民館」、「図書館」の3つの機能を持ち合わせた施設として整備します。

●利用者ニーズの変化や、今後の観光振興の方向性を見極めながら、観光施設の計画的改修やリニューアルとともに、あり方の検討を進めます。



討等を進めます。

### 全国に誇れる地域資源の発信力強化

●「全国発酵食品サミット」を一度性のイベントとせず、高島市の発酵食文化の素晴らしさをさらに全国へ発信します。

●全国的に高い評価を受けている高島トレイルについて、その魅力をさらに全国に発信できるように、話題性ある記念イベントを企画します。

## 防災・環境

国の災害対策や、県の避難計画とも整合性のとれた地域防災計画の見直し

●南海トラフ巨大地震の被害想定や、台風18号被害等の検証作業、また原子力災害時における広域避難計画など、県の地域防災計画の見直しや、国の災害対策基本法の改正を踏まえて、これらと整合性が図れるよう、「高島市地域防災計画」の見直しを行います。

●消防本部における災害対応力の強化のため、通信連絡体制の迅速な処理を図ることで、消防指令システムの高機能化を図ります。

### 民間での

### 再生可能エネルギー導入を支援

●住宅や事業所の太陽光発電システムの設置に対する支援を継続します。

●土地改良区が実施する、農業水利施設を活かした小水力発電の事

業化や、太陽光発電の取り組みを支援します。



## 教育・文化・スポーツ・子育て支援・女性

高島の将来を担う子どもたちが健やかに成長する教育環境

●市内小・中学校の子どもたちの快適な学習環境を確保するため、必要な大規模改造事業とともに、エアコン整備、トイレの洋式化を、引き続き進めます。

●子どもの発達段階や教育課題に応じて、一貫性ある学習指導、生徒指導を行うことで、確かな学力と豊かな人間性、たくましい心身を育てることを目的に、「高島市小中一貫教育基本方針」に基づいた小中一貫教育を、市内全域で本格的に実施します。



●市内小・中学校の子どもたちの快適な学習環境を確保するため、「高島市学校規模適正化基本方針」に基づき、マキノ北小学校、今津西小学校、広瀬小学校の3校について、目標年次の統合に向けた手続きを進めるとともに、マキノ地域4小学校の1校化に向けた検討を始めます。

### いじめ防止基本方針の策定

●教育委員会と各小中学校による「いじめ対策指針」、保護者の方々との連携による「ストップいじめ行動計画」に加え、昨年施行された「いじめ防止対策推進法」を踏まえて、福祉部門と教育委員会が

連携を図りながら、高島市いじめ防止基本方針策定委員会を設置し、いじめ防止基本方針を策定します。

●地域の方々を協働し、重要文化的景観を活かしたまちづくりを推進するためにも、大溝城周辺の水辺景観について、本年7月に、国に対して、重要文化的景観選定の申請を行なう予定です。

●小中学生の医療費無料化を入院費用から通院費にまで拡大

●昨年10月から実施している小学生から中学生までの入院費の無料化をさらに拡充し、本年10月から、通院に係る医療費についても無料化し、保護者の負担軽減を図ります。

●青柳学区内に、学童保育を1か所増設し、小学生に授業終了後の適切な遊びと生活の場を提供します。

●平成27年度からの「新しい子ども・子育て支援制度」の実施に向け、地域課題や市民ニーズを分析し、将来を見据えた「高島市子ども・子育て支援計画」を策定します。



# 市制10周年記念事業の キャッチ・ロゴが決定!

## ● ロゴマーク



《制作者》小島 力さん (大阪府大阪市)

市が鮮やかな大輪の花を咲かせたイメージで市制10周年の成長と今後の発展を表しています。

## ● キャッチフレーズ

### 『未来へつなぐ 人と自然のまちづくり』

《制作者》齋藤 洋士さん (千葉県茂原市)

人と自然の素晴らしいまちづくりを未来につなぐことを表しています。

1月8日から2月28日までの約2か月間、高島市制10周年記念事業のキャッチフレーズおよびロゴマークの募集を行いました。おかげさまでキャッチフレーズ348点、ロゴマーク109点ものご応募をいただきました。高島市制10周年記念事業推進委員会委員による厳正なる選考の結果、最優秀賞を次のとおり決定しました。キャッチフレーズとロゴマークは、市が主催する市制10周年記念事業のほか、市民団体等の連携事業などに広く活用していきます。

## 一体感のあるまちづくり

市制10周年の節目を、一体感醸成の契機に

●市民の皆様との協働で、市制施行10周年記念事業を進めるため、市民団体による「市制10周年記念事業推進委員会」を設置し、次世代につながる新たな価値を創造するような実りある事業を展開します。

●JR湖西線開通40周年記念事業と合わせた催しや、秋に予定の式典をはじめ、市の花、木、鳥を制定し、市の一体感の醸成を図ります。

### 市民の生活と命を守る 基幹道路の早期整備

●国道161号・303号・367号、加えて主要な県道は、市民生活や産業・観光振興など地域経済を支えるとともに、万が一の琵琶湖西岸断層帯や花折断層の地震発生時には、緊急避難、緊急輸送道路として、市民の生命と財産を守る道であり、その早期整

備は喫緊の課題です。特に国道161号小松拡幅については、大津市との連携を深め、国や県に対し、早期整備を引き続き強く要請します。

●市道整備においても、道路整備プログラムの点検、見直しに基づき、緊急度、優先度等を考慮し、とりわけ橋梁長寿命化事業についても、計画的に整備を図ります。

●JR湖西線新旭駅のエレベーター設置に向けた交通バリアフリー基本構想の策定に取り組みます。

●水道施設の耐震化を進めるとともに、人口減少にともなう水需要減少を踏まえ、設備の効率的な更新を図り、必要給水量を確保します。

●下水道事業については、地方公営企業会計への移行手続きを進めるとともに、農業集落排水施設等を計画的に公共下水道へ接続することで、効率的な運用を図ります。

## 職員の育成



### 職員一人ひとりの意識と 能力を高め、組織力を向上

●昨年からの、あつてはならない職員の不祥事や不適正な事務処理について、市民の皆様の信頼を失墜させてしまう結果となり、改めて深くお詫び申し上げます。

●こうした中、管理職をはじめとする職員の説明能力向上や若手職員育成に取り組むため、主査級主任級、参事級の職員による政策研修グループを設置し、予算査定や政策調整会議等への参加を求め、政策形成のプロセスを直接体験するといった研修を私自らの指しで始めたところです。

以上、平成26年度の市政運営方針について、今期定例会への提案議案等の内容を踏まえ、その概要の一部を申し上げます。

今回、議会でのご意見や執行体制も考慮させていただき、組織の見直しもご提案しています。新体制で、職員の意識改革とともに、組織力が最大限に発揮できるように、職員ともども一丸となって取り組まさせていただきます。

高島の未来をしっかりと見据えながら、市民の皆様の生活を守り、次世代へ誇りを持って引き継いでいくことができる確かな高島市を目指し、将来に悔いのない市政運営に改めて全力を尽くす決意です。

※福井市長の「施政方針」の全文については、市ホームページ「web市長室」からご覧になれます。

## 10周年 振り返れば 高島

### 平成17年～18年編

#### 合併後の歩み出し

平成17年1月、湖岸で一斉に水柱を立てた出初式で、合併した高島市の名のもとに再編された消防団が開始しました。他にも多くの組織等が、合併とともに再編され、市を支える自治の礎として機能していきました。そうした地域力を試すかのように、平成18年の冬は豪雪が本市を襲いました。積雪が2メートルを超え、集落もあり、朽木で土砂崩れ、各地で家屋倒壊の被害が発生するなどの事態に、市では雪害対策本部を設置し、官民協力してこの対応にあたりました。

平成17年9月には吹田市と、平成18年4月には守口市と、それぞれ旧町時代のご縁を市全体のつながりに発展させるため、災害応援協定等を締結するとともに、平成17年11月の建設業協会高島支部との災害応援協定を含め、自治体機能を補完するつながりを築いてきました。

一方で悲しい出来事もありました。平成18年7月に、2歳の幼児が保護者の虐待により死亡するという痛ましい事件が発生しました。こうした悲劇を二度と繰り返さないために、地域ぐるみで児童を保護する仕



平成17年1月1日に行われた高島市開市式

#### 地域資源に光を

平成17年5月に高島市誕生記念式典が開催され、記念のフォーラムで、本市にある人と自然の関わりの中でつくり出されてきた独特の文化や景観を次世代に引き継ぐ必要性が説かれました。平成18年2月の美の里つくりコンクール農村振興局長賞(針江区)受賞や同年8月の快水浴場百選(マキノサニービーチ)選定などは、地域資源を守り育てる取り組みが評価されたといえます。

また、平成18年2月に始動した大家友和ベースボールクラブ高島の活動は、野球でプロを目指す若者の夢実現の舞台としての高島の可能性を大いに感じさせるものでした。平成18年6月にオープンした道の駅「藤樹の里あどがわ」は、今や近畿の道の駅でもトップクラスの売り上げを誇る施設となりました。これは、高島の産品等が評価されたものと考えられます。